



海越えて を

創刊号

2014 夏 無料

櫻井病院の看護師を訪ねて

中国人看護師 とう董さん

1 日本の「看護の心」を学びたい 奮闘する中国人看護師

外国人看護師を育成する日本語学校訪問

2 地域社会に恩返しできる看護師を育てたい

3 外国人看護師を積極的に応援する病院紹介

4 協会の活動紹介

5 創刊にあたって

患者様の身になって心を込めた医療・看護を実践する櫻井病院訪問

日本の「看護の心」を学びたい 奮闘する中国人看護師

都心から約50キロメートル。自然豊かな東京都あきる野市にある総合病院櫻井病院は、協会設立以前の2013年4月から中国人看護師を受け入れ、現在、3名の中国人看護師が勤務しています。今回は中澤事務局長と3名の中国人看護師にインタビューしてきました。



櫻井病院 中澤事務局長へのインタビュー

Q まず中国人看護師を受け入れたきっかけをお聞かせください。

中澤 現在、鹿児島島の看護専門学校の新卒の学生を受け入れているので、新人の看護師受け入れはもともと抵抗がありませんでした。看護師不足ということもあり、2012年に中国人看護師受け入れを検討し始めました。当初、現場は外国人受け入れに抵抗がありました。それは、EPAで来日した東南アジアの看護師合格率が低いというのを聞いており、中国人看護師も同様に合格できるかどうか心配な面があったからです。そこで、最初は1名だけを受け入れてみようと考えました。

Q 初めて、中国人看護師を受け入れてみてどうでしたか。

中澤 受け入れる前は、日本人並みの会話力、コミュニケーション能力があるかどうか心配でした。幸い、何さんは日本の大学出身で、日本に住んだこともあり、コミュニケーションには問題はありませんでした。但し、ここに来たばかりの頃は何に対して「はい、わかりました」と答えるだけで、業務内容の確認をしていませんでした。これは、日本人の新人にもあることで、業務確認の習慣づけが大切という教育から始めました。また、習慣や文化の違いで業務の理解力や適応能力に差があることもわかりました。当院も初めての外国人看護師の受け入れだったので、参考にできる指導例がありませんでした。本人も初めての環境で相当大変だったと思います。軌道に乗せる

なってくると思います。当院はこのまま継続して、受け入れていくと思います。先日、患者さんから、彼女等に「中国から来ているの、頑張ってるね」と励ましの言葉をいただいているのを目にしました。この3名の中国人看護師はここで働き続けていくと思っています。

櫻井病院看護師 何さんへのインタビュー

Q 何さんは、櫻井病院の初めての外国人の看護師として、入職しましたが、当初何か困ったことはありませんか。

何 最初は、やはり言葉ですね。アルバイトで実習したことがあり、業務内容はある程度、入職前に覚えましたが、本格的に現場に出た時は、患者さんと話す時、ドクターと話す時、申し送りの時などの言葉遣いには本当に苦労しました。



▲インタビューを受ける何さん

Q 仕事に慣れるまでにどのくらいかかりましたか。

何 半年位だと思います。業務指導の先輩がとても親切で、段々慣れてきました。

Q どのように仕事を覚えていきましたか。

何 メモとレビューが大事です。メモ帳を常備し、わからない言葉や業務の流れなど、メモを取ることを習慣づけました。それに、各病棟の目標にあわせて、自分自身の目標を設定し、その目標をチェック、反省することも必要です。

Q 日本の病院と中国の病院に違いがありますか。

何 看護師の仕事の内容はほぼ同じですが、求められる看護師像が違います。日本は看護師の原点である「看護の心」があるかどうかや、患者さんへのアセスメント力が期待されていますね。中国では看護師は原則としてお医者さんの指示によって動きます。私は日本で暮らした経験があるので、「看護の心」は理解しやすかったのですが、アセスメントについては意識して努力しました。

Q 後輩達に何かアドバイスはありますか。

何 まず、初心を忘れないでほしいです。なぜ自分は日本に来たのか、なぜ日本の病院で働きたかったのかを常に思い出して、日々、取り組んでください。そして、いつまでも勉強することを忘れないでください。専門知識はもちろん、日本語、日本の習慣、



▲インタビューを受ける李さん

常識など日本を理解するための勉強は継続しなければなりません。

櫻井病院看護師 董さん、李さんへのインタビュー

Q 先輩がいて、いいことはありますか。

董 同じ学校の先輩がいることは、心強いです。病院側も先輩が最初に働いていたことで、私たちのことを理解してくれて、いろいろなこと気を使ってくれていると思います。

李 わからないことがあれば、先輩に聞くことです。私たちと同じ立場で、同じ経験をしている先輩がそばにいてくれて、本当にラッキーだと思います。

Q 今、困っていることはありますか。

李 申し送りをする時の言葉遣いや、看護報告書を書く時の言葉の選び方、どんな言葉を使っているか、時々、わかりません。董 私も同じです。自分たちの日本語はま

▼インタビューを受ける中澤事務局長



まで、病院側も試行錯誤し、時間がかかりました。

Q 今年は新たに中国人看護師2名を受け入れていますが、どうですか。

中澤 そうですね。2014年4月、何さんの後輩である中国人看護師董さん、李さんを迎え入れました。この2人に関しては、割と早い段階で馴染んでいきました。現場はすでに中国人看護師の育て方、教育の仕方が分かっていたから。何さんの時に、時間をかけたおかげだと思っています。

Q これからの受け入れについて、どのようにお考えですか。

中澤 看護師不足を改善し、地域医療の看護・介護のお役に立つには、将来、外国人看護師の受け入れがこれまで以上に必要に

だまだで、もっと勉強しなければならぬと感じます。

Q 実際に働いてみて、これから将来どうしていこうと考えていますか。

李 この櫻井病院は、先輩がすごく優しく面倒を見てくれるので、大変なこともあります。今は職場が楽しく、大好きです。できるだけ長くこの病院で働こうと思っています。

董 私も長く働きたいです。たくさんの方を先輩方から学んで、吸収していきたいです。

Q これから日本で看護師を目指す人に何かアドバイスはありますか。

董 専門知識はもちろん、大事ですが、日本語のコミュニケーション能力を身に付けることや、日本の常識や知識を学ぶことも同じように大切です。時間があるうちにいろいろな勉強をしてください。

李 日本語学校の勉強期間中、できるだけ細かく自分自身の目標を決めて、目標チェックをして、修正と反省を繰り返しましょう。



▲李さん(左) 董さん(右)

外国人看護師を育成する日本語学校訪問

地域社会に恩返しできる 外国人看護師を育てたい

櫻井病院に勤務している中国人看護師何細妹さん達は、来日後どのような学校で学び、卒業したのか知りたくて、東京都福生市にある新日本学院を訪ねました。学校の理事である看護師育成コース責任者の吉本康平先生が出迎えてくれました。



Profile 吉本 康平

昭和38年中国生まれ。平成8年来日、平成15年に日本国籍取得。新日本学院理事、看護師育成コースを担当。日中2か国語を話せ、両国文化にも精通している。学生の生活指導でも活躍中。

Q 吉本先生、こんにちは。まず新日本学院について紹介して下さい。
吉本 新日本学院は1982年に設立された定員466名の日本語学校です。ご存じでない方に説明させていただくと、日本語学校というのは、日本語を習得したい海外からの留学生を受け入れる学校です。当校は多様な学生のニーズに合わせて、一般大学進学、難関大学進学、就職、そして看護師育成コースなどのコースを設置しています。現在、中国、ベトナムなどの15か国からの留学生が451名在籍しております。法務省に認可されている留学ビザを取得できる日本語学校は全国に500校近くありますが、当校は規模で言えば、上位の30位以内に入る学校です。

Q 看護師育成コースのことを少しご紹介いただけますか。
吉本 N1というのは、N5からN1まである日本語能力試験の最上級レベルです。当校でアルバイトをしながら勉強している一般進学コースの学生の場合、2年間勉強しても合格率が40%未満なのですが、看護師育成コースの学生は1年でクリアしなければなりません。
Q 相当大変な目標ですね。
吉本 そうですね。N1に合格できなければ、看護国家試験の受験資格すら得られません。国家試験対策の勉強はもちろん、日本と中国では看護現場での違いも多いため、日本の病院で就職できる力を身に付けなければなりません。

なりません。学生たちは相当大きなプレッシャーを背負いながら、勉強に励んでいます。
Q しかし、100%の看護師国家試験の合格率はすごいですね。国家試験対策の面では、何か秘策がありますか。
吉本 当校は日本語学校ですから、国家試験対策は日本語カリキュラム以外で行っています。看護専門学校からの派遣授業、予備校の公開講座、また、学生には過去問対策を徹底しています。実は、看護師国家試験の8割は学生たちが自国で一度勉強した内容で、日本独自の内容は2割程度なのです。例えば日本の法律法規、在宅看護などで、中国の学生が教わっていない内容を整理すれば、国家試験は難しくないと考えます。



B&B 遠足 in 清水国明の森と湖の楽園 『めざせ日本の白衣の天使』というキャッチコピーは学生たちからのアイデア。



看護学生用『実習室』の設置 看護実習以外にも、日本語会話授業ロールプレイの設定場面として利用でき、より自然な看護日本語訓練が期待できます。

担当教師より

実践力を高める取り組み

文化への順応性、柔軟性や看護師としての適性は、毎日の授業の態度や成績では判断できません。学生全員、まじめに授業に取り組み、日本語能力試験N1合格を目指している「いい学生」です。看護の模擬試験などいい点を取ると学生も教師も満足してしまいがちですが、その「いい学生」も実際の現場では、評価が低くなってしまっていることがあります。

そこで、当校では、性格面や仕事に対する考え方を育てるための試みとして、看護師の現場適応力検査と面接を実施しました。その結果、より深く学生のことを知ることができ、日本語習得以外のアドバイスもできました。ただ試験に合格したら働けると思っていた学生の意識も少しは変わったように感じます。

今後もこのような取り組みを増やし、一人ひとりの質を高め、現場に送り出すときは大鼓舞をかけるように、教師側も日々努力していきたいと考えています。

新日本学院 看護クラス担当教師
中島 崇

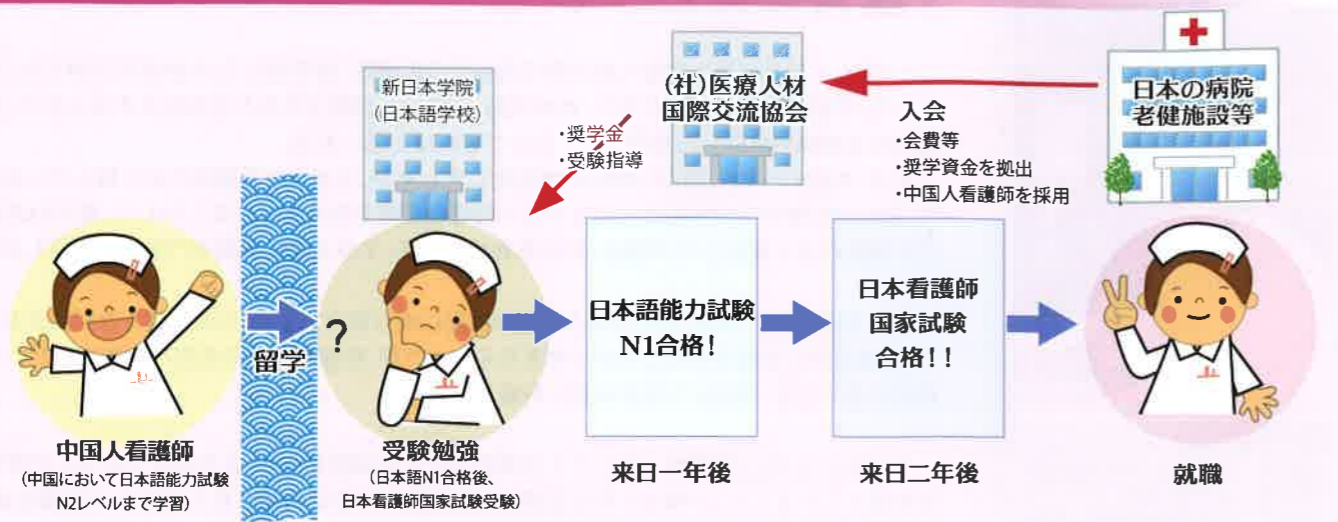


二期生卒業式 国家試験に見事全員合格し、卒業。(2014年3月21日)



新日本学院 「学生満足度、日本一」をめざす日本語学校

留学から就職までの流れ



「一般社団法人医療人材国際交流協会」の概要

一般社団法人医療人材国際交流協会は、中国人看護師の育成、就労を支援する 病院等を会員とする、営利を目的としない団体です。以下に概要をご紹介します。

- 協会は、病院と新日本学院を正会員とする 一般社団法人であり、いわゆる人材紹介会社ではありません。
- 協会の主な活動は、下記の通りです。
 1. 外国人医療人材プロジェクトの企画・運営 (現在、協会が対象とする外国人医療人材は「中国人看護師」です)。
 2. 病院等からの奨学金及び中国人看護師への奨学金等の管理運営。
 3. 中国人看護師に対する日本看護師国家試験受験対策等の支援。
- 正会員は一般社団法人の社員です。口数に比例した議決権を有します。
- 病院会員の一口は新日本学院卒業生1名の採用をする病院の意思を表します。
- 正会員は口数に応じた奨学金を拠出するとともに協会の運営費用を負担します。

協会の活動紹介

- 2011年 3月 現在プロジェクトに関与している者が概ね出会う。
- 2012年 4月 新日本学院に初めての中国人看護師2名(第一期生)が入学
- 2012年 6月 原田視察団中国青島市訪問(病院・看護大学見学、看護学生・大学幹部等との懇談)
- 2013年 3月 第一期生全員が日本国家試験合格(同4月に2病院の就職)
- 2013年 4月 第二期生16名が入学
- 2013年 7月 「一般社団法人医療人材国際交流協会」設立
- 2013年10月 プロジェクト説明会実施
- 2013年12月 3病院が会員となる
- 2014年 3月 第二期生の内国家試験受験者6名全員が看護師試験に合格(同4月に3病院に就職)
- 2014年 4月 第三期生27名が入学
- 2014年 7月 第三期生1名が追加入学
実習室(ロールプレイングルーム)設置

病院会員募集中!

外国人看護師を採用する病院会員を募集しています。詳細は下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先
一般社団法人医療人材国際交流協会
電話 042-513-7620
e-mail kango@nja.co.jp
FAX 042-530-2455
担当 吉本、李、柿木(かきのき)

卒業生と在校生の状況

◆卒業生の看護師国家試験合格者(実績)

受験年月	受験者数	合格者数	合格率
2013年2月	2名	2名	100%
2014年2月	6名	6名	100%
合計	8名	8名	100%

◆在校生の状況(2014年7月現在)

	学生数	
日本語N1	12名	2015年2月 看護師国家試験受験
その他	26名	本年7月の日本語能力試験N1合格者は、2015年2月の看護師国家試験を受験可能
合計	38名	

編集後記

(社)医療人材国際交流協会の広報誌『海を越えて』創刊号をお届けします。◆深淺はまちまちながら中国に縁のある者たちが集まって、看護師を必要としている病院と、「海を越えて」日本でチャレンジする中国看護師を支援するプロジェクトを立ち上げてから約3年半。手探りで活動を始め、走りながら考える、でやってきました。少々実績もできました。◆我々の活動をもっと多くの方に知って頂きたいという気持ちから広報誌を作成することになりました。◆季刊です。3か月に一度お目にかかります。どうぞ宜しくお願いします。(KT)



私たちは患者さまの権利を尊重します
医療法人 東明会 原田病院
HARADA HOSPITAL

理事長 : 原田雅義 (名誉院長)
院長 : 原田佳明
所在地 : 埼玉県入間市
病院開設 : 1968年 (原田外科病院)
法人設立 : 1971年 (医療法人東明会原田病院)
病床数 : 189床 (一般135、回復期リハビリテーション31、療養23)

地域医療と

看護師育成に取り組み

外国人看護師を積極的に応援する病院紹介

原田病院は、埼玉県南西部に位置する入間市にある中核病院である。14の外來診療科目に対応するとともに二次救急指定を受け、一般急性期病棟、回復期リハビリテーション病棟、療養病棟をバランスよく配置している。

「現状維持は後退を意味する」の理念の下、常に良質で高度な先進医療の提供に努めている。例えば「高気圧酸素治療」の有効性に早くから着目し、昭和60年には「高気圧酸素治療装置(大型II種)」を導入した。また、画像診断の重要性を認識し、RI、MRIをはじめとして各種画像診断装置の充実を図るとともに、それらの最新設備への更新を怠らないという方針を貫いている。平成22年には全種目にわたるフィルムレスレザライメイジャーの設置と最先端の電子化を達成した。

同院は、地域医療の中核病院として、指定居宅事業所・訪問看護ステーション、ホームヘルパーステーション、訪問リハビリテーションを併設し、平成19年に入間市から「入間市豊岡地区地域包括支援センター」を受託した。このように、同院は西

武池袋線特急停車駅の入間市駅より徒歩8分という抜群の立地を生かして、徹底して地域に密着した医療を展開している。

また、原田病院は、看護師の育成に力を注いでいることでも知られる。理事長の原田雅義氏は、昭和61年に入間医師会立准看護学校、平成2年には学校法人入間平成学園人間看護専門学校の設立に尽力した。現在、両校の校長ならびに埼玉県准看護学校校長会会長を務めている。両校を卒業した看護師、准看護師は主として埼玉県西部地域の病院に採用され、地域における看護師の確保に貢献している。

更に、平成21年には埼玉県全病院のトップを切ってEPAに基づく外国人看護師の受け入れ事業に参加し、インドネシアからのEPA看護師2名を受け入れた(うち、1名が国試合格)。また、平成25年には日本語学校である新日本学院を卒業した中国人看護師の受け入れを開始し、現在は5名の中国人看護師が勤務している。同院は、看護師の安定的な採用ルートの一つとして、今後とも中国人看護師を積極的に活用していきたい、と話している。

協会便り

中国視察



日本の病院に対する理解を深めるため、留学中の中国人看護師が地域の病院を見学しました。学生たちは、「日本の病院の(心のこもった)看護を目の当たりにし、「優しい看護師になりたい。」と決意を新たにしていました。

学校見学

外国人看護師の採用経験のない日本の病院が新日本学院を訪れ、中国人看護留学生の教育現場を見学しました。学生との懇談会では、「看護師になるきっかけは?」「日本の看護師になるとした動機は?」「将来の目標は?」など、沢山の質疑が交わされました。学生の真剣な学習態度と明るく積極的な応答に、参加者は学生のやる気を改めて認識していました。





| 創刊にあたって



原田雅義

- 1955年 東京医科大学医学部卒業
- 1961年 医学博士取得
- 1968年 原田外科病院開院、院長
- 1971年 医療法人東明会
原田病院理事長・院長
- 1990年 学校法人人間平成学園
人間看護学校理事長・校長
- 1999年 人間市医師会立入間看護
学校校長
- 2002年 日本臨床外科学会特別会員
人間地区医師会会長
(2008年退任；現在参与)
埼玉県看護学校校長会会長
- 2004年 埼玉県医師会看護師准看護
師問題検討委員会委員長
(2008年退任)
- 2010年 「旭日双光章」受章
- 2013年 一般社団法人医療人材国際
交流協会会長
- 2014年 東京医科大学医学部医学科
同窓会理事
医療法人東明会
原田病院理事長・名誉院長

この度、一般社団法人医療人材国際交流協会の広報誌「海を越えて」を創刊する事になりました。中国人看護師の人となり、育成活動、病院での活躍ぶりなどをお伝えすることで、慢性的な看護師不足に一石を投じることができればと思います。

私は、昭和43年に入間市で病院を開業致しましたが、当初より看護師不足に悩んでいました。周辺の中堅中小の病院は大なり小なり同様な課題を抱えておりましたので、地元の医師会や病院有志と協力して、昭和61年に准看護学校を、平成2年に看護専門学校を設立しました。

更に平成15年ごろからは、外国人看護師採用に取り組みました。当時は様々な障害があり、残念ながら実現させることができませんでした。中国看護師の状況を理解したという意味においては、今日につながる良い経験でした。

5年前には、埼玉県で唯一のEPA看護師受け入れ病院となり、2名のインドネシア看護師を受け入れました。一昨年1名は看護師国家試験に見事に合格し私の病院への就職を果たしましたが、もう1名は残念ながら帰国を余儀なくされました。漢字の壁の高さを改めて痛感した次第です。

この間、私は中国の看護学校を何度となく見学しましたが、内容は素晴らしいものがあります。そして、これらの経験から“外国人看護師を採用するならば中国人”という気持ちを一層強くしました。このような経緯を経て、昨年4月に新日本学院を卒業した中国人看護師の採用が実現しました。現在は5名の中国人看護師が当院に勤務しています。

同じ漢字文化を持つ中国人看護師は、白衣を着れば日本人看護師と区別がつかず、また、多くの医療用語が共通なため修得するスピードも早い。他国人と比べコミュニケーションも取りやすく、一衣帯水の隣国の中国との看護師の交流は、少子高齢化を迎える日本にとって必須の策ではないかと考えています。

小誌を通して、国際交流の時代における中国人看護師受入れの意義が、日本の病院各位に少しでも伝わることを念願しつつ、創刊のご挨拶とさせていただきます。

協会会長 **原田雅義**

地域に愛着をもつ 外国人看護師の育成を目指して

数年前、フィリピンEPA看護師候補者の日本語教育視察のため、在比日本領事館を訪問しました。当時の担当官の「出稼ぎ目的のEPA実習生は果たして日本の国益につながるのか」との言葉がいまだに忘れられません。

私も二十歳の時、「出稼ぎ」のために日本に来ました。三十歳頃までずっと、日本に残るか中国に帰るか迷っていました。しかし、今では住宅ローンも組んで、コソコソ銀行の利子を返済し、蕎麦や納豆を食べ、時には「和牛」に舌鼓を打つちょっとした贅沢もして、いつの間にか日本の生活に馴染んでいました。最近中国から帰って来る度に、日本のほうが落ち着くと思うようにさえなりました。

「出稼ぎ目的」の外国人をいかにして地域の一員として定着させるか、それが日本の外国人受入政策のポイントではないかと私は思います。

三年前に原田先生をはじめとする有志とともにこの外国人看護師育成プロジェクトを始めました。私たちの目標は「資格取得」、「就職支援」に留まらず、外国人看護師が日本人と同じように仕事をし、仕事に対して日本人に勝るとも劣らぬ喜びを感じ、自分のコミュニティに愛着を持ってもらえるまでが使命だと考えています。

私達の看護師たちが「日本の習慣、文化を理解するやさしい外国人看護師」と呼ばれ、思いやりと活気が溢れる日本の地域会社に融けこんで、活躍する日が遠からず来ると信じています。海を越えて。

協会代表理事



ビリー
畢煜

一般社団法人医療人材国際交流協会代表理事。1976年中国山東省生まれ。1997年4月来日。1999年東京大学経済学部入学。大学在学中、日中文化交流事業を企画する会社（株式会社明晴インターナショナル）を設立。また、中国青島市等の三都市に日本人教師による直接授業法の日本語学校を展開。現在、新日本学院（東京都福生市）の理事長。「学生満足度日本一」をめざし、「思いやり」の経営理念を実践中。3人の父であり、子供達に「どうしてパパの日本語が下手なの」と聞かれ、苦悩中。